

自己評価報告書

平成23年4月11日現在

機関番号：13701

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008 ～ 2011

課題番号：20520159

研究課題名（和文） 戦国末期における東国武将の文化継承に関する研究

研究課題名（英文） A Study on the succession of culture by Samurai lived in Kanto area in the late Sengoku period

研究代表者

弓削 繁 (YUGE SHIGERU)

岐阜大学・教育学部・教授

研究者番号：10127798

研究分野：中世文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：月庵酔醒記・一色直朝・戦国末期・文化継承・知識

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、古河公方足利晴氏・義氏に仕えた一色直朝（月庵）が著述・編纂した『月庵酔醒記』を対象にして、戦国末期における東国武将の文化継承の実態を解明するところにある。

すなわち、『酔醒記』の注釈、典拠研究をとおして、中世から近世に至る「伝承」や「知識」の継承、変容の様態を、文化史および文学史の中で明らかにすることを目指している。

2. 研究の進捗状況

本研究は、平成10年から始まった『月庵酔醒記』の輪読会を継承、発展させたものであり、研究代表者及び研究分担者のほかに数名の研究協力者（研究会参加者）によって推進されてきた。

20年度は名古屋市立大学人文社会学部、21年度は南山大学人文学部会議室を会場に月1回4時間の研究会を開催し、22年度は南山大学人文学部会議室を会場に年4回の研究会を開催してきた。

20・21年度は『酔醒記』の注釈、典拠研究が中心であったが、そこで得られた知見は、『月庵酔醒記（中）』『月庵酔醒記（下）』（三弥井書店刊、中世の文学）として公開した。中冊は本文108頁に対して補注197頁、下冊は本文116頁に対して補注190頁に及んでいる。典拠研究は広汎にわたるため、更に継続した調査と新資料発掘の努力が必要であるが、輪読会段階に出版した『月庵酔醒記（上）』と合わせて、基礎研究はこれで一応の目的を達成したことになる。そして、目下、使用の便を考え、主要な語彙の索引作りに取りかかっているところである。

22年度はこのような基礎研究を踏まえた上で、月庵および古河公方周辺における文化継承の問題について研究を推し進めてきた。そこでは、

- (1) 知識・伝承の中世から近世への変容
- (2) 古河公方の和歌・連歌活動
- (3) 月庵と戦国公卿との文化交流
- (4) 月庵の武人・文人としての位相と『酔醒記』の世界

などの問題が解き明かされつつある。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

- (1) 各人に分担箇所と調査課題を割り振るなど、責任を明確にして研究を進めてきたこと。
- (2) 月1回4時間という、濃密な調査発表と討議の場を設けてきたが、これが当初の計画どおり有効に機能したこと。
- (3) 本研究の準備段階に当たる輪読会から参加していた若手研究協力者らにより、意欲的な資料調査が行われたこと。
- (4) なお、研究分担者として本研究の中心にあった美濃部重克を21年度末に失ったが、他に主導的な研究協力者があり、また研究体制が確立していたため、その影響を最小限にとどめることが出来たこと。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度に当たる23年度の課題は次の点にある。

- (1) 22年度に引き続き月庵および古河公方周辺の文化継承の課題を明らかにすること。
- (2) 注釈書の語彙索引を完成させること。

(3) 注釈・典拠研究の補充調査を継続し、基礎研究を一層信頼に足るものにする。

そこで、23年度も年数回の研究会を開催し、充実した研究発表と十分な討議を行うこととする。その場合、(1)の課題には多方面にわたる特異な事柄が含まれているので、必要に応じて講演などの形で部外専門家の力を借りる予定である。

これらの成果は、『月庵醉醒記 索引・研究編』(仮題)として12月の公刊を目指す。その後には得られる知見は、本研究課題の報告書に、4年間の総括とともに付載することとする。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 弓削 繁、ノートルダム清心女子大学附属図書館蔵黒川文庫本『長明無名抄』翻刻、岐阜大学国語国文学、37、15～52、2011、無
- ② 服部幸造、『月庵醉醒記』の世界—その一面、福井大学言語文化学会国語国文学、50、1～11、2011、無
- ③ 小林幸夫、まじないの歌(犬筑波集の魅力24)、船団、85、6～7、2010、無
- ④ 小助川元太、『後素集』の『帝鑑図説』利用—狩野一溪の画題理解に関する一考察、国語国文、78-6、1～18、2009、有
- ⑤ 榎原千鶴、明治24年の『からすまる帖』—福羽美静にみる戦略としての近代女性教

育—、名古屋大学文学部研究論集、55、143～157、2009、有

[学会発表] (計2件)

- ① 小助川元太、『後素集』の画題解説と漢故事和訳—『語園』との共通説話を中心に—、伝承文学研究会、2010年9月5日、学習院女子大学
- ② 佐々木雷太、謡曲による和歌—『雲玉和歌抄』所収歌をめぐって—、中世文学会春季大会、2010年5月30日、法政大学

[図書] (計4件)

- ① 服部幸造、美濃部重克、弓削繁、三弥井書店、月庵醉醒記(下)、2010、320
- ② 日沖敦子、新典社、毛髪で縫った曼荼羅—漂白僧の物語—、2010、186
- ③ 小助川元太、竹林社、僧の自伝の系譜—中世における〈僧の自伝〉を中心に—、阿部泰郎編『中世文学と寺院資料・聖教』、2010、610～636
- ④ 服部幸造、美濃部重克、弓削繁、三弥井書店、月庵醉醒記(中)、2009、315

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]